

受賞者決定のお知らせ

住友生命社会貢献事業

第3回『未来を築く子育てプロジェクト』

～ 少子化対策支援3事業 受賞者決定～

応募総数 1,713 通

住友生命保険相互会社（社長：佐藤 義雄）は、子育てしやすい環境づくりを目指し、『未来を築く子育てプロジェクト』を2007年度に発足、「エッセイ・コンクール」「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の公募3事業を通して、子育てに関する様々な活動を積極的に応援しています。第3回目となる本年度は、2009年6月1日～9月30日の期間に展開し、合計1,713(前年1,193)通のご応募をいただきました。この度、『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会の選考のもと、下記の通り計40名の受賞者を決定しました。

各事業の受賞概要

◆エッセイ・コンクール

子育ての苦勞を乗り越え、子どもが自立していく過程で周囲が得る気付きや喜びなど「子育てのすばらしさ」が伝わる作品として、1,417点のご応募をいただき、最優秀賞5点、優秀賞20点を決定。最優秀賞の佐野広美さんには、内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞を、大内龍一さんには厚生労働大臣賞が授与されます。

◆子育て支援活動の表彰

少子化対策や育児子育て支援に資する諸活動を行っている個人・団体からご応募いただきました。計161組の応募の中から、活動のユニークさ、汎用性などを考慮したうえ、未来賞6団体を決定いたしました。この6団体から「NPO法人 子ども達の環境を考える ひこうせん」と「むくどりホーム・ふれあいの会」を未来大賞として選出。合計100万円の副賞を今後の活動にお役立ていただきます。

「NPO法人 子ども達の環境を考える ひこうせん」には、内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞を、「むくどりホーム・ふれあいの会」には、厚生労働大臣賞が授与されます。

◆女性研究者への支援

人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中でもある女性研究者135名の方からご応募いただきました。「スミセイ女性研究者支援」として9名の受賞者を決定。9名の受賞者には、1年間あたり上限100万円の研究助成金を最大2年間支給します。

また、表彰式を2010年2月22日（月）にホテルニューオータニ（東京）にて開催いたします。各募集事業の概要・受賞者については、以下の通りです。

【住友生命社会貢献事業『未来を築く子育てプロジェクト』概要】

主 催：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

後 援：厚生労働省

協 賛：住友生命保険相互会社

審 査 員：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

実行委員長	堀田 力氏	(さわやか福祉財団理事長、弁護士)
実行委員	池田 守男氏	(株式会社資生堂相談役)
実行委員	大日向 雅美氏	(恵泉女学園大学大学院教授)
実行委員	奥山 千鶴子氏	(特定非営利活動法人びーのびーの理事長)
実行委員	金田一 秀穂氏	(杏林大学外国語学部教授)
実行委員	吉永 みち子氏	(作家) 以上、50音順
実行委員	横山 進一	(住友生命保険相互会社取締役会長)

審査結果：

エッセイ・コンクール

募集内容：“子育て”“子育て”をテーマとしたエッセイを、幅広く募集。

周囲の協力や創意工夫、苦勞を乗り越えたエピソード、“子育て”で気付いたこと、楽しさ、すばらしさ、喜び・・・を伝えるエッセイを募集。

表 彰：◆内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞

（最優秀賞の中から1点）／表彰状

◆厚生労働大臣賞（最優秀賞の中から1点）／表彰状

◆最優秀賞 5点 ／表彰状、旅行券 20万円分

◆優秀賞 20点 ／表彰状、図書カード 3万円分

応募数：計1,417点

子育て支援活動の表彰

募集内容：より良い子育て環境づくりに取り組む“個人”・“団体”を募集。

特長的な子育て支援の活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育ての不安を払拭することを目的としています。

応募規定：◆子育て支援に資する活動をおこなっていること。

◆活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。

◆活動の公表を了承していただける“個人”・“団体”であること。

◆日本国内で活動していること。

表 彰：◆内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞（未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

◆厚生労働大臣賞（未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

◆未来大賞 2組 ／表彰状、副賞 50万円

（未来大賞受賞者から2組選出。副賞は未来賞と合わせ、計100万円）

◆未来賞 6組 ／表彰状、副賞 50万円

応募数：計161の団体ならびに個人



女性研究者への支援

募集内容：人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成。“育児”のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給。



応募規定：◆人文・社会科学分野を専攻し、有意義な研究テーマを持っている。

- ◆現在、未就学児（小学校就学前の児童）を育てている。
- ◆原則として、修士課程資格取得者、または、博士課程在籍・資格取得者。
- ◆2名以上の推薦者がいること（うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所などの指導教官または所属長の推薦が必須）。
- ◆現在、大学・研究所などに在籍しているか、その意向があること。
- ◆支援を受ける年度にほかの顕彰制度、助成制度で研究助成を受けていないこと。（育児休業給付などは、研究助成に当たりません。）
- ◆国籍は問いませんが、応募は日本語に限ります。

表彰：「スミセイ女性研究者支援」 9名

助成金として、1年間100万円(上限)を最大2年間支給します。

支給期間は2010年4月から2012年3月までの2年間の予定です。

応募数：計135名

【第3回『未来を築く子育てプロジェクト』受賞者一覧】

エッセイ・コンクール

(氏名・住所・エッセイタイトル、50音順、敬称略)

最優秀賞 5点

内閣府特命担当大臣 (少子化対策) 賞

佐野 広美 (東京都) 「七十歳違いのともだち」

厚生労働大臣賞

大内 龍一 (千葉県) 「トライ！」

糸井川 誠子 (岐阜県) 「梅桃(ゆすらうめ)」

伊藤 由佳 (山形県) 「よしよし」

福岡 亮治 (京都府) 「究極の親子コミュニケーション」

優秀賞 20点

畦池 哀 (神奈川県) 「息子へ」

生駒 春美 (熊本県) 「出会い」

伊藤 千秋 (宮城県) 「いつかわたしも・・・」

上野 咲子 (埼玉県) 「回数券」

上野 貴也 (愛知県) 「やればできる男の子育て」

越後 久美子 (北海道) 「子育てに必要なチカラ」

大西 賢 (東京都) 「今日からともだち」

岡 直人 (福岡県) 「布オムツ」

金子 みどり (茨城県) 「あなたのおかげで」

高木 朝子 (愛知県) 「ぷーちゃんママ大明神」

高橋 亜美 (東京都) 「自立援助ホームで生きる子どもたちと共に」

高橋 誠一 (千葉県) 「心和む「よそ孫」育て」

中村 祥子 (鹿児島県) 「りょうくんの絵日記」

中谷 ちなつ (埼玉県) 「都心にあるもう一つの故郷(ふるさと)」

西野 範子 (大阪府) 「働きたいママに、息子からの素敵な贈り物。」

西村 睦 (北海道) 「うちのニセばーちゃん」

堀山 有里子 (埼玉県) 「親見習い若葉マーク」

馬島 友二郎 (埼玉県) 「隣のなおくんから教えられたこと」

山崎 太郎 (福岡県) 「神さまは見ている」

渡辺 真実 (栃木県) 「じじ友できたよ！」

子育て支援活動の表彰

(団体名・住所・活動内容)

未来大賞かつ未来賞 2組

内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞

- ・ NPO 法人 子ども達の環境を考える ひこうせん（岡山県備前市）

備前市の事業委託を受け活動し、乳幼児の親子のための各種サロンを運営。父親の子育て応援も行う。

厚生労働大臣賞

- ・ むくどりホーム・ふれあいの会（北海道札幌市）

赤ちゃんからお年寄りまで障害がいの有無に関わらず、参加者が共に集い交流するひろば活動を行う。

未来賞 4組

- ・ NPO 法人MMサポートセンター（福島県南相馬市）

「通常クラスに在籍」しながら、生きにくさを抱える子ども達を、言語聴覚士が中心となって支援。

- ・ 特定非営利活動法人 うていーらみや（沖縄県那覇市）

沖縄に古くから伝わるわらべうたを通じた「親と子どもが一緒に楽しむ」子育て支援。

- ・ 『知ろう！小児医療 守ろう！子ども達』の会（東京都杉並区）

パパ・ママの不安を減らすため、子どもの病気の基礎について、小児科の先生から直接学べる機会を講座の企画・実施。

- ・ わくわく未来塾（大阪府寝屋川市）

熟年世代が平和学習や昔遊びなど人生の中で培ってきた経験・知識・技術を社会に還元するための活動を行う。

女性研究者への支援 9名

(氏名・所属・研究テーマ、50音順、敬称略)

- ・ 伊東 あゆみ（お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科）

研究内容： 日本語学習者の読解における協同的活動の効果の検証

- ・ 奥村 佳代（お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科）

研究内容： ニューカマー生徒が経験する困難とその対処行動

- ・ 榎澤 令子（日本女子大学大学院 人間社会研究科）

研究内容： 子育てにおける葛藤場面ストーリー作成と負の感情生起の検証

- ・ さいとう あい 齊藤 愛 (筑波大学大学院)

研究内容： 日本の近代国家形成期における外国人と日本人の関係-表象の観点から
- ・ しゅん か 春花 (東北大学国際文化研究科)

研究内容： 日本語とモンゴル語のことわざの比較

-ことわざに見られる男性観と女性観の意識とその変容について
- ・ たなか よしえ 田中 淑江 (日本女子大学大学院 人間生活学研究科 生活環境学専攻)

研究内容： 染色品保存修復技術に係る能装束の形状研究
- ・ やまぐち かとう むつみ 山口 (加藤) 睦 (東北大学東北アジア研究センター)

研究内容： 贈答記録からみる家族のジェンダー-日中比較の文化人類学的研究
- ・ やん ひーじょん 梁 熙貞 (関西学院大学大学院 言語コミュニケーション文化研究家科)

研究内容： 在日コリアンのバイリンガリズム-オールドカマーとニューカマーをめぐって
- ・ わたなべ あけみ 渡辺 明美 (早稲田大学大学院 アジア太平洋研究国際関係専攻)

研究内容： 自立発展性を目指した教育協力に対するプロジェクト形態別比較研究

以 上